

令和 7 年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業 (最終報告)

地域特産物の生産・加工に関するセミナー開催 及びかながわブランド登録品のPR【新規】

予算額：200,000円 決算額：165,000円

計画の位置付：P.41【重点】(1)藤沢ブランドの創出（イ 藤沢産農水産物を利用した加工品の開発支援）
目標：かながわブランドへの登録 1 件（計画目標と同じ）

- ▶ 8月7日に審査会が開催され、「藤沢生まれの藤稔(ふじみのり)」がかながわブランドに新規登録されました。
- ▶ 藤沢産品のかながわブランド登録数は20件となりました。
- ▶ 本件については、県知事の定例記者会見をはじめ、様々なメディアで取り上げられ、藤沢産のPRに繋がりました。
- ▶ 実行委員会でのぼり旗を作成し、直売所で活用されました。



未利用魚を活用した加工品の開発支援 及び学校給食での活用検討

3

予算額：180,000円 決算額：0円

計画の位置付：P.41【重点】(1)藤沢ブランドの創出（イ 藤沢産農水産物を利用した加工品の開発支援、ウ 未利用魚の認知度向上）
P.43【重点】(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化（イ 藤沢産農水産物等の利用促進）
目標：小学校・特別支援学校36校での給食提供（公立校全校）

- ▶ 前年度の取組の課題（保管や仕分け）を踏まえ、公立小学校・特別支援学校全校で25,000食の給食提供を目指しましたが、令和7年度は不漁の影響により、実施を見合わせました。
- ▶ 最終的には、加工費や原材料費を支援することなく、利用できる体制構築を目指します。
- ▶ 藤沢の水産物を学校給食で活用することにより、地域の水産業の理解及び食育の促進を図ります。
- ▶ 価値が乏しい未利用魚を活用することにより、食品ロス解消や付加価値向上を図ります。
- ▶ 完成した加工品は、江の島片瀬漁協等と協力し、学校給食以外での活用についても検討します。

☆江ノ島の定置網漁でとれたワカシ（ワリの子とも）
で作った「つみれ」が登場します！～未利用魚・SDGs～

未利用魚とは…
大きさや、漁獲量、需要の低さなどが原因で、商品価値が付きにくく、売り買いが難しいお魚のこと。手間をかけたリ、加工したりすることで美味しく食べられます。

藤沢の魚業者さん（浜野水産さん）が、特別に江ノ島でとれたワカシを加工して「つみれ」を作ってくださいました。給食室で、油で揚げ、甘酢あんをからめ「地魚団子の甘酢あん」として、1月16日の給食に出ます。ワカシの確保量の関係で、このつみれが登場するのは、藤沢市の数校だけです。とても貴重な機会なので、子どもたちには、藤沢産のお魚を味わうとともに、SDGsや未利用魚について知ってもらえたらと思います。



給食だよりを通じて家庭へも発信します

藤沢産農産物を利用した加工品の開発支援

4

予算額：100,000円 決算額：45,177円

計画の位置付：P.41【重点】(1)藤沢ブランドの創出（ア 藤沢ブランドとなる新たな一次産品の創出）
目標：開発支援した加工品の商品化

- ▶ 生産者、JA及び加工業者等と協議し、組織的に生産されている藤沢産農水産物を活用した新たな加工品を対象に、販促用品の作成費用を実行委員会予算で負担し、ブランド化につながる6次産業化の取組を推進します。

令和7年度は、さがみ地粉の会の協力のもと、藤沢産津久井在来大豆を使用した甘納豆「しぼり豆」を開発・商品化を支援しました。
支援した加工品は、今後わいわい市などで販売が予定されています。→4月に試験販売を行い好評。現在追加販売している。



小学校でのふりふりバター体験事業 保育園児と生産者の交流事業

5

予算額：40,000円【ふりふりバター体験事業分】 **決算額：20,372円**
計画の位置付：P.43【重点(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化(ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進)

予算額：50,000円【保育園児との交流分】 **決算額：62,844円**
計画の位置付：P.43【重点(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化(ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進、オ 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用) 目標：実施園2園（前年度実績と同数）

- ▶ 保育園へ藤沢産米を供給するにあたり、バケツを使った稲作体験を実施し、水稻生産者との交流機会を設けました。子ども向け学習コンテンツを活用し、農地の持つ多面的機能の理解促進及び食育の推進を図りました。
- ▶ 収穫したお米は園児たちが美味しく食べることができました。
- ▶ 小学校では、藤沢市畜産会とやまゆりポーク生産組合等の協力を得て、生産者による畜産の授業やバター作り体験を行いました。
- ▶ 今年度はこのほか小学校において収穫体験をし、校内にて地産地消マルシェを開き、児童たちが自らパッキングした収穫物を販売しました。



農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物の給食の提供

6

予算額：50,000円 **決算額：46,008円**

(2) 藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化（計画P43）ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進
オ 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用 目標：農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物の給食の提供継続

- ▶ 藤沢市都市農業振興計画において、有機農業の取組面積拡大を目標として掲げていることを踏まえ、農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物の給食の試験提供に取り組みます。
- ▶ 農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物の給食の提供により、『残食率の減少』『市のイメージアップによる移住者の増加』『需要の創出による産地化の安定』『食育の推進』など様々な効果が見込まれます。
- ▶ 令和6年度から農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物の給食の提供を開始しましたが、虫食い部分の除去に手間がかかり、児童数の少ない学校では対応できたが、今後取組を全校に拡大する上では課題が残る結果となりました。今後の本格実施に向けて令和7年度も試験提供に対して支援を継続しました。



- 今年度は給食提供だけでなく、生産者による授業と児童による収穫体験をあわせて実施しました。
- ここで言う「農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物の給食」とは、「有機農業の推進に関する法律」の定義する有機農業などで生産された農産物を学校給食において利用することとしています。

地産地消イベント事業 農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物のマルシェ

7

予算額：200,000円【農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物のマルシェ分】**決算額：156,851円**

計画の位置付：P.47【重点】(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催）目標：来場者数 1,250名（前年度実績と同等）

- ▶ 国が示す「みどりの食料システム戦略」において、2050年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大することを目標にしており、本市においても「第2次藤沢市都市農業振興基本計画」を2022年3月に策定し、本市においても同様に拡大することを目標に設定したことから、農薬や化学肥料等を用いず栽培された農産物に着目したイベントを継続開催しました。

- ◆開催日 2025年11月23日（日）勤労感謝の日。
- ◆開催場所 辻堂神台公園
- ◆イベント内容 有機野菜の直売、キッチンカー、ヨガ、縁日、農機具展示、ワークショップ

- ◆来場者数 650名

- ▶ 辻堂神台公園では、6/29(日)から辻堂朝ごはん朝市実行委員会主催の「辻堂朝ごはん朝市」（藤沢市後援事業）が毎週日曜日7時～9時の間、開催されるようになりました。



地産地消イベント事業 元気バザール、サンセットマルシェ

8

予算額：170,000円【ふじさわ元気バザール、サンセットマルシェ分】**決算額：147,480円**

計画の位置付：P.47【重点】(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催）

- ▶ 藤沢駅北口等で開催されている「ふじさわ元気バザール」や毎週月曜日・水曜日・金曜日に藤沢市役所サンセット広場で開催されている「藤沢産サンセットマルシェ」の中で、藤沢産農水産物のPRを行いました。
- ▶ 元気バザールでは、藤沢商工会議所にご協力いただき、野菜市でお買い上げいただいた方を対象に新米配布キャンペーンを行いました。



花育体験イベント事業 PR用花き等購入費

9

予算額：100,000円【花育体験イベント事業】**決算額：120,185円**
計画の位置付：P.47【重点(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催、イ 生産者と消費者の交流イベント等の開催）】

予算額：80,000円【PR用花き等購入費】**決算額：72,000円**
計画の位置付：P.47【重点(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催）】
目標：市役所本庁舎以外での展示。花き以外の農産物の展示。

- ▶ 子どもを対象に花の寄せ植え体験を実施し、寄せ植え体験と生産者との交流を通じて、藤沢の花きに対する知識や理解を深めてもらうことにより地産地消の推進を図りました。

開催日：12月7日(日) 会場：辻堂神台公園 参加者数：26名+保護者

- ▶ 市役所本庁舎等において、季節の藤沢産花きや農産物を展示・PRしました。



開催の様子



展示の様子



緑育体験イベント事業

10

予算額：110,000円 **決算額：129,542円**
計画の位置付：P.47【重点(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催、イ 生産者と消費者の交流イベント等の開催）】

- ▶ 藤沢市植木生産組合を講師に招き、緑育体験イベントを継続開催することで、より市民に植木生産を身近に感じてもらう機会を創出しました。

開催日：10月25日(土) 会場：さがみ農協 緑化流通センター 参加者数：14家族20名



開催の様子



動画・PVの作成

11

予算額：110,000円 決算額：110,550円

計画の位置付：P.51【長期】(1)藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策（ウ 藤沢産農水産物等のおいしい・旬の普及啓発・情報提供（ウ）「おいしい藤沢産」ホームページ等での情報発信）

- ▶ 農業水産課で開設しているYouTubeチャンネル「おいしい藤沢産TV」へ新たな動画を投稿し、藤沢産農産物の『旬』『生産者のこだわり』『美味しい調理方法』を紹介することにより、地産地消の取り組みを推進します。

◆動画企画◆

タイトル：「藤沢産利用推進店のプロモーションビデオ」

構成：オープニング～店舗紹介～インタビュー～エンディング（1分程度に短くまとめる）

R7年度は「Caféふあもあ」さんのPR動画を作成しました。

藤沢産利用推進店PR用「食べ歩きマップ」の作成

12

予算額：200,000円 決算額：325,050円

計画の位置付：P.49【長期】(1)藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策（エ 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化（ア） 藤沢産利用推進店の充実）

- ▶ 令和6年度に作成した『湘南しらす版』に続き、令和7年度は『藤沢産の豚肉版』を発行しました。
- ▶ また過去に作成した「食べ歩きマップ」も増刷しました。
- ▶ また利用推進店については、藤沢市の防災や暮らしに関する地図情報を掲載している「ふじさわキュンマップ」にて情報を公開しています。ふじさわキュンマップは、スマートフォンからもアクセス可能です。

ふじさわキュンマップは
コチラ→→→→→→→→



藻場保全事業

予算額：100,000円 決算額：120,678円

(2) 本市農水産業を維持・発展されるため継続的に取り組む施策（計画P53）

イ 持続可能な生産環境への支援
(イ) つくり育てる漁業の推進

13

- ▶ 全国的に広がりを見せている磯焼けについては、江の島周辺も例外ではありません。
- ▶ 現在、本市では食害生物（海藻を食べるアイゴ）駆除作業や藻場保全に取り組む『江ノ島フィッシャーメンズプロジェクト』に対し補助を行っています。
- ▶ 海藻の生い茂る「藻場」は生命のゆりかごとも呼ばれ、水産動物の生育場や二酸化炭素の吸収源として極めて重要であることから、更なる藻場保全に取り組むものです。
- ▶ 神奈川県水産技術センターでは、通常の1/3の期間（半年）で成熟する「早熟性ワカメ」の大量培養と、藻場を再生する研究に取り組んでいます。神奈川県や漁協、民間団体と連携し、江の島周辺においても、このような技術を活用した藻場保全事業に取り組みました。



ワカメの種糸

湘南藤沢市民マラソンにおける藤沢産農水産物のPR【新規】

予算額：70,000円 決算額：85,735円

(2) 関連する施策との連携（計画P54）
ウ シティプロモーション事業との連携

14

- ▶ 市政施行85周年記念事業として開催される、湘南藤沢市民マラソンにおいて、ランナー等の来場者に湘南しらすを配布し、さらなる魅力の発信に寄与しました。
- ▶ 参加者からは「適度な塩分補給になった」など、運動後の栄養補給についても、よい効果を得られたという意見も見られました。

